

【課題（案）】

① 高齢者・障がい者及び
児童・生徒など交通弱者への対応
→町内の移動支援の改善

② 家族等による送迎の負担の解消

③ 公共交通同士の接続と
広域アクセスの改善

④ 過度な車利用の抑制と
地域の輸送資源の維持

【対策イメージ（案）】

ア) 路線バスと巡回福祉バス等との役割分担の明確化（路線バスの補完）
イ) 町民ニーズに合った巡回福祉バスのサービスの見直し
ウ) 既存公共交通を補完する移動手段の確保

ア) まちづくりの進捗に合わせた新たな移動への対応
イ) 交通結節点の機能強化
ウ) 周辺自治体との広域連携・協力

ア) 公共交通利用に対する意識の醸成や分かりにくさによる不安の解消
イ) 地域資源の総動員による持続性の確保

① 高齢者・障がい者及び児童・生徒など交通弱者への対応 → 町内の移動支援の改善

【地域特性や公共交通の現状】

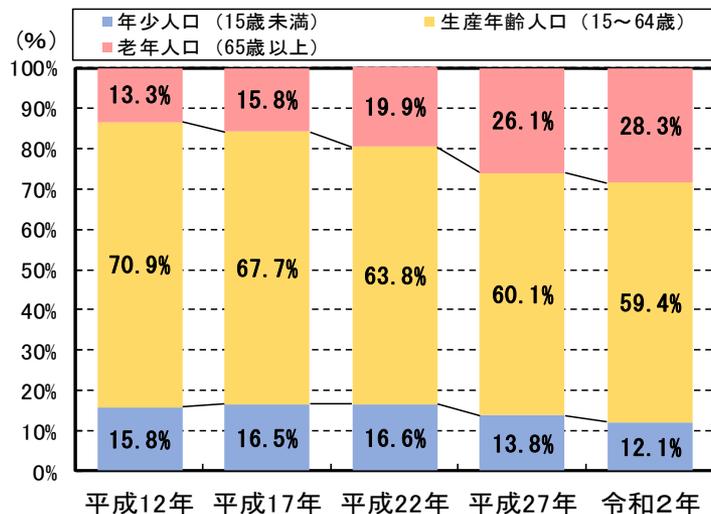
○ 高齢化の進展

- ・ 高齢者数… 令和2年：4,841人
 令和7年：4,828人
- ・ 高齢化率… 令和2年：28.3%
 令和7年：28.5%

○ 障がい者数は微増傾向

(平成25年：661人→平成29年：677人)

図1：年齢3区分別構成比の推移



【公共交通に関するニーズ調査】

《町民アンケート調査》

- 運転免許を持っていない15~19歳や20~29歳、70歳以上で外出時の困り具合の割合が高い
→ 遊び・趣味・習い事など、買物、通院
《図2・3》
- 高齢になるほど、町内での移動割合が高い
《図5》

《地区別ヒアリング》

- 高齢者ほど車が必要で、歩いて移動出来ないため、車を使わざるを得ない
- 今は自転車を使って、買物しているが、これから先は不安
- 後期高齢者以上になると、バス停まで行くのが大変

○運転免許を持っていない15～19歳や20～29歳、70歳以上で外出時の困り具合の割合が高い →遊び・趣味・習い事など、買物、通院

図2：年齢別外出する際の困ることの有無

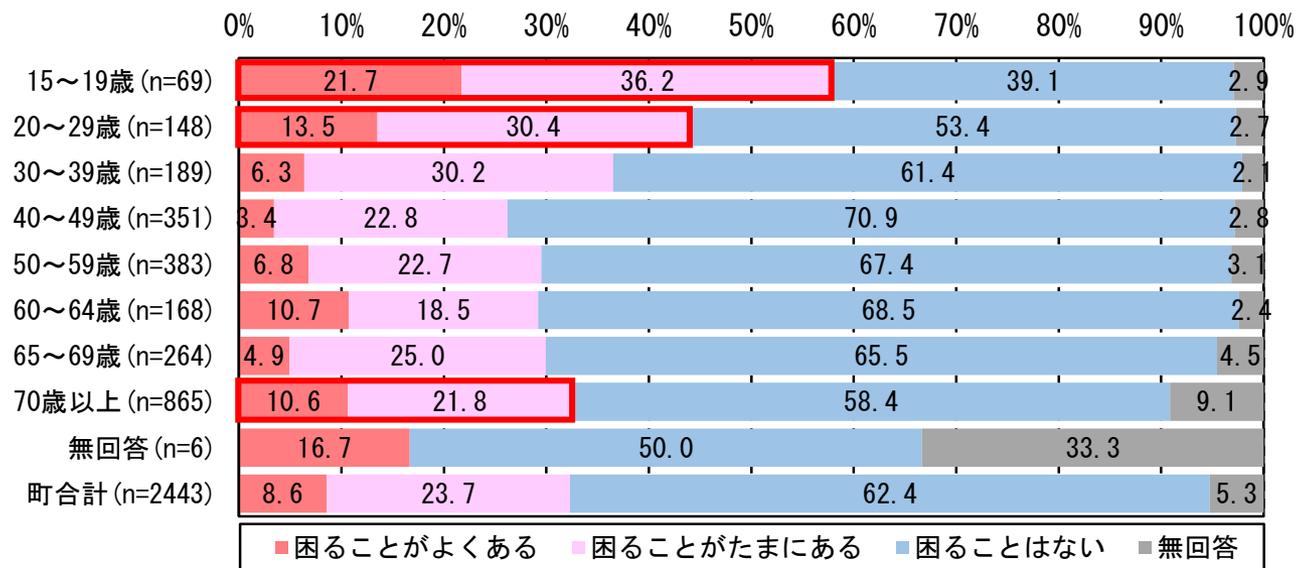
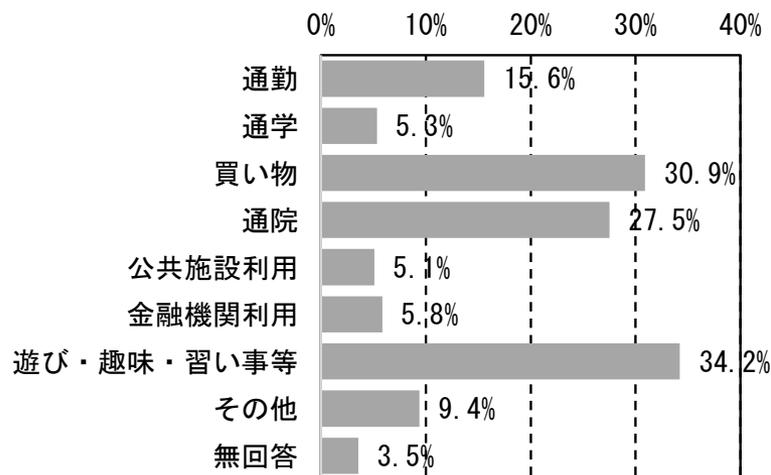


図3：困っている時の目的



- 通勤、通学、遊び・趣味・習い事等は町外、買い物、外食、公共施設利用、金融機関利用は町内の移動割合が高く、通院は町内、町外それぞれ同程度
- 高齢になるほど、町内での移動割合が高い

図4：外出目的別行き先

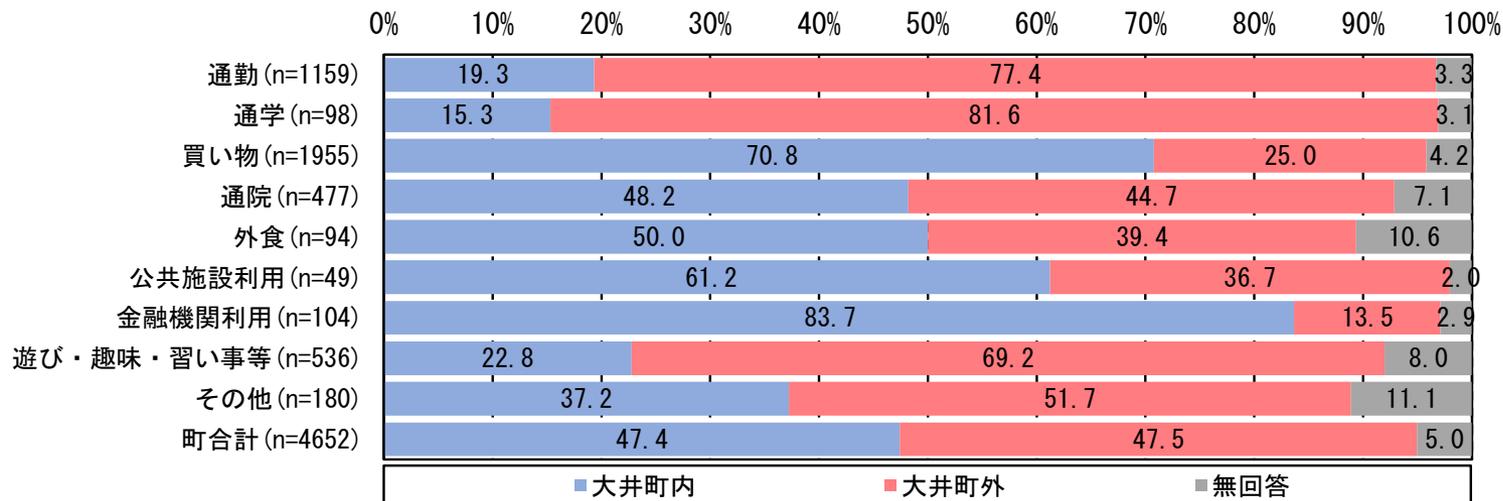
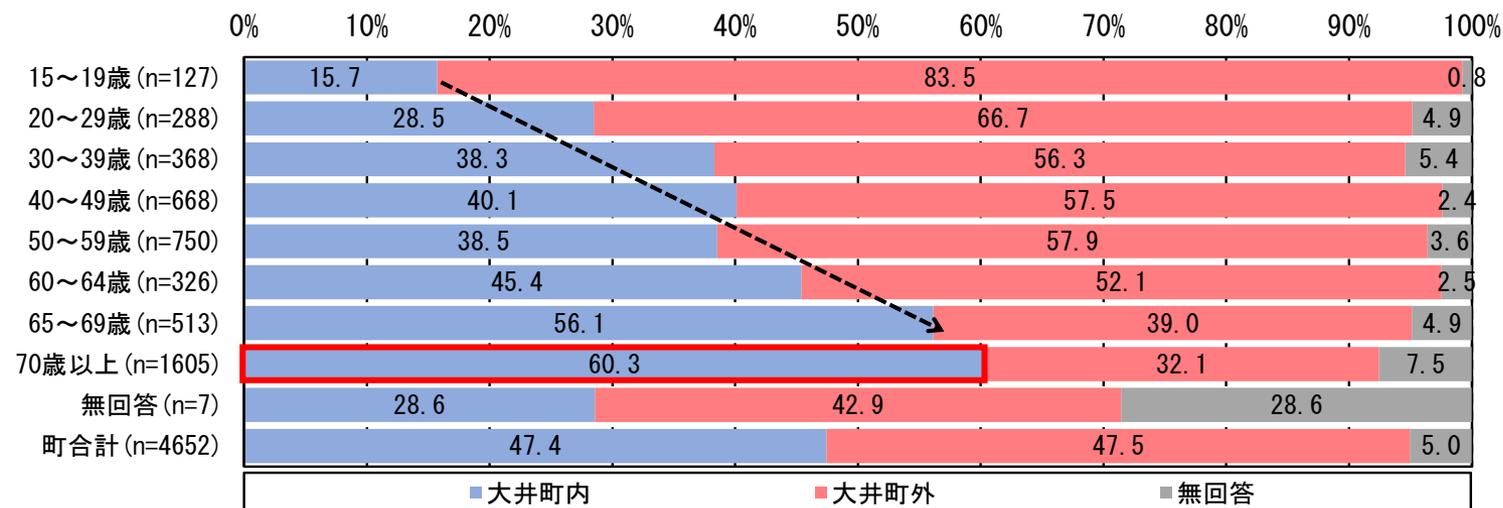


図5：年齢別行き先



② 家族等による送迎の負担の解消

- 外出時の交通手段は15～19歳や70歳以上で「家族等による送迎」割合が高い
- また、運転免許を持っていない方で、「家族等による送迎」割合が高い

図6：外出時の年齢別主な交通手段（町民アンケート調査）

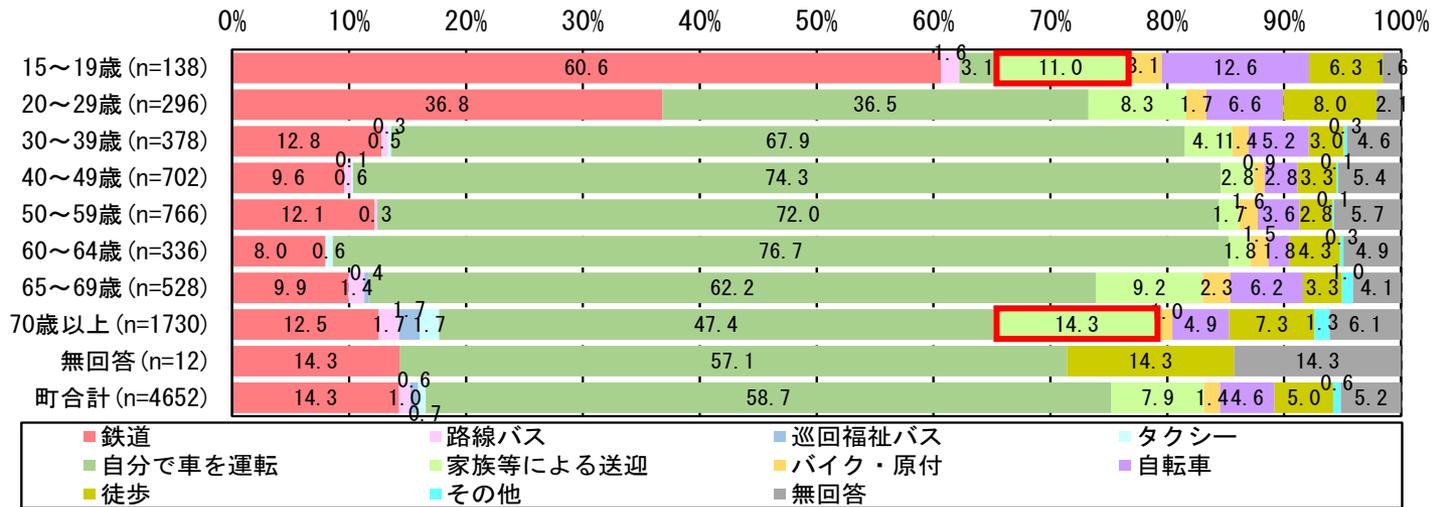
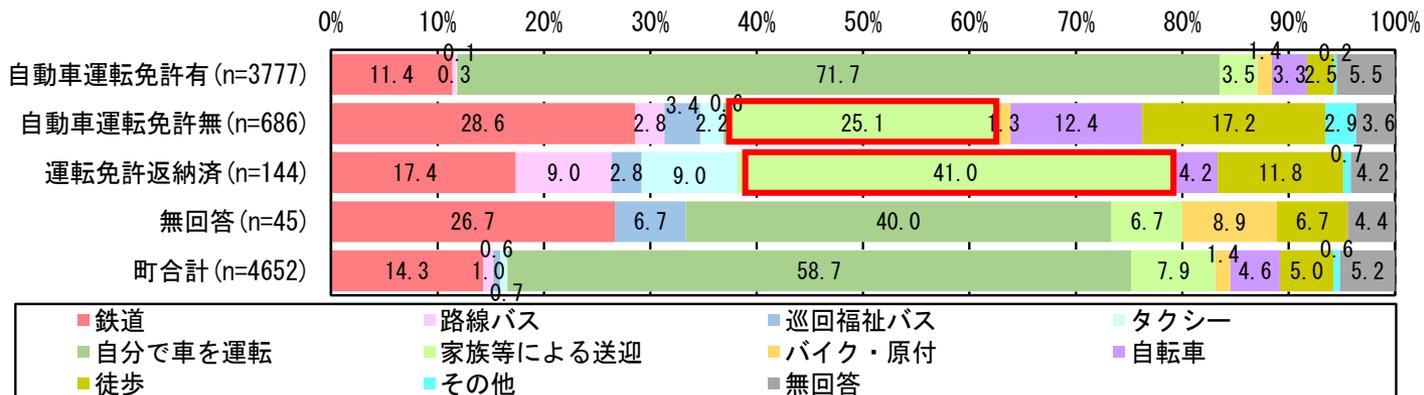


図7：外出時の自動車運転免許有無別主な交通手段（町民アンケート調査）





ア) 路線バスと巡回福祉バス等との役割分担の明確化

- 既存のバス路線を維持しつつ、巡回福祉バスの見直しを行うため、バス事業者と調整を図る（路線バスの補完）

イ) 町民ニーズに合った巡回福祉バスのサービスの見直し

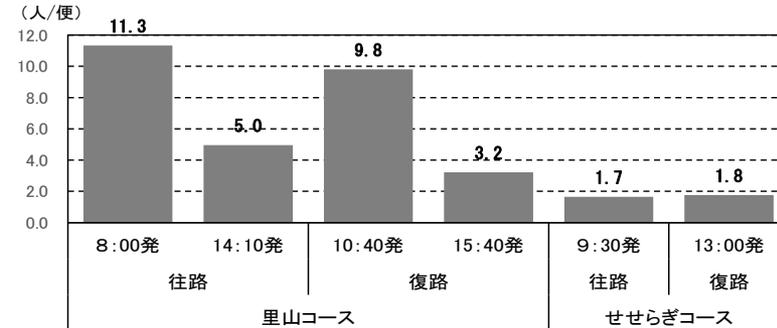
- 全体利用者数は減少傾向（平成27年度：5,489人→令和元年度4,581人）
- 1便平均利用者数は「せせらぎコース」で2人/便未満と少ない《図8》

（町民アンケート調査）

- 認知度は「知っていた」方が35.2%と低い
- 特定の利用者が限定で、利用出来ないものと思っていた
- どこで停まるのか分からないため、バス停を設置して欲しい
- 運賃は無料だと乗りづらいので、有料が良い
- 行きは良いが、帰りの時間に合うダイヤがない
- フリー乗降を導入して欲しい

（地区別ヒアリング）

図8：ダイヤ別1便平均利用者数
（令和元年度）



運行日	週3日
便数	里山コース：2往復 せせらぎコース：1往復
料金	無料

ウ) 既存公共交通を補完する移動手段の確保

- 地域の助け合いによる輸送サービス（互助）の仕組みづくりの支援体制の構築
- 社会福祉協議会で実施中の移送サービスとの連携、役割分担の明確化

■ 社会福祉協議会で実施中の移送サービスなど

移送サービス事業	<ul style="list-style-type: none">・公共交通機関の利用が困難な高齢者及び重度障がい者を対象に、病院への通院、入退院、施設への入退所への送迎・平日の8時30分～17時・自宅から目的地までの往復の距離が5km未満まで400円、以降5km超過につき200円加算
移動販売車「くるまつくん」	<ul style="list-style-type: none">・松田町で実施名の空き時間を活用し、テスト販売中・2週間に1日（水曜日） ※相和地区方面と金田・曾我方面を交互に実施
買物ツアー	<ul style="list-style-type: none">・毎週木曜日に期間限定で、ヤオマサ大井町店、ヤオマサあしがらモール店まで運行（運転手：登録ボランティア）

（地区別ヒアリング）

- 地域の移動手段は地域全体で考えることが大事
- 互助による送迎など地域で支える組織づくりを検討して欲しい



③公共交通同士の接続と広域アクセスの改善

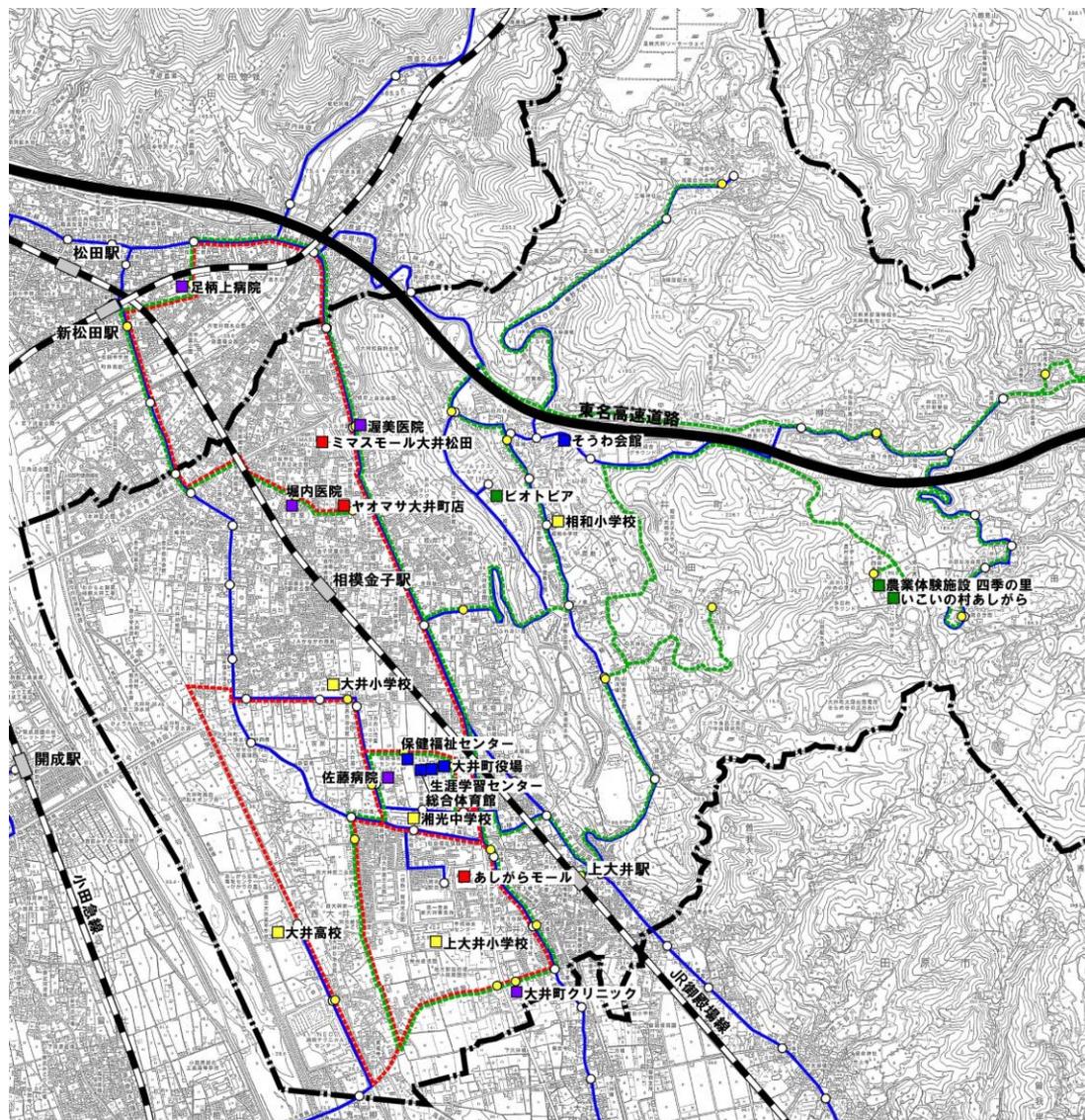
【地域特性や公共交通の現状】

- 大井中央土地区画整理事業や都市計画道路・金子開成和田河原線が整備中
- 鉄道、路線バス、巡回福祉バス、タクシー及び高速バスなど多様な公共交通が運行中
- 路線バスは新松田駅を起点に町内や小田原駅、国府津駅を接続するよう運行
- 大井町役場周辺や国道255号沿線などに公共施設、店舗などが分散し立地（新松田駅等で乗換えが必要）



東西移動の改善

→ネットワークや接続改善が必要



【公共交通に関するニーズ調査】

《町民アンケート調査》

- 町民の行き先は通勤、通学、遊び・趣味・習い事等、通院で町外への移動割合が高い《図5》
- 路線バス利用者で、他の交通機関との乗り継ぎに対し不満度は35.5%と高い《図9》
- 公共交通機関が運行した場合の行き先として、第1位：新松田駅（1,002件）、第5位：開成駅（313件）と町外への鉄道ニーズが高い《図10》

《令和元年度公共交通利用者アンケート調査》

- 路線バス利用者の最終目的地は町外（小田原市、松田町等）が約9割と多い

図9：路線バスの運行サービスに対する満足度（町民アンケート調査）

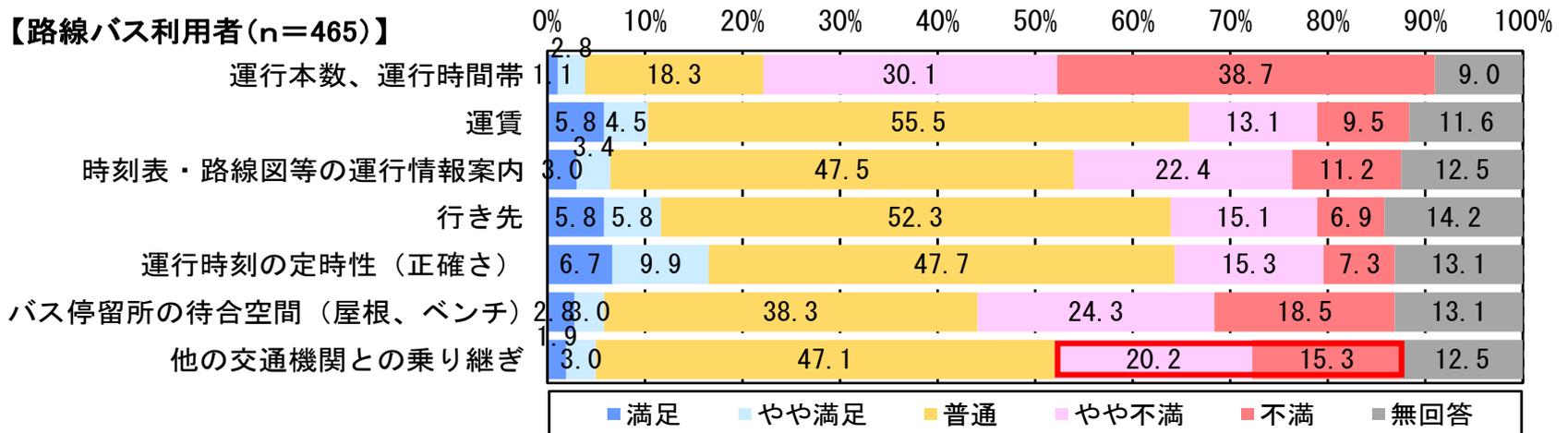
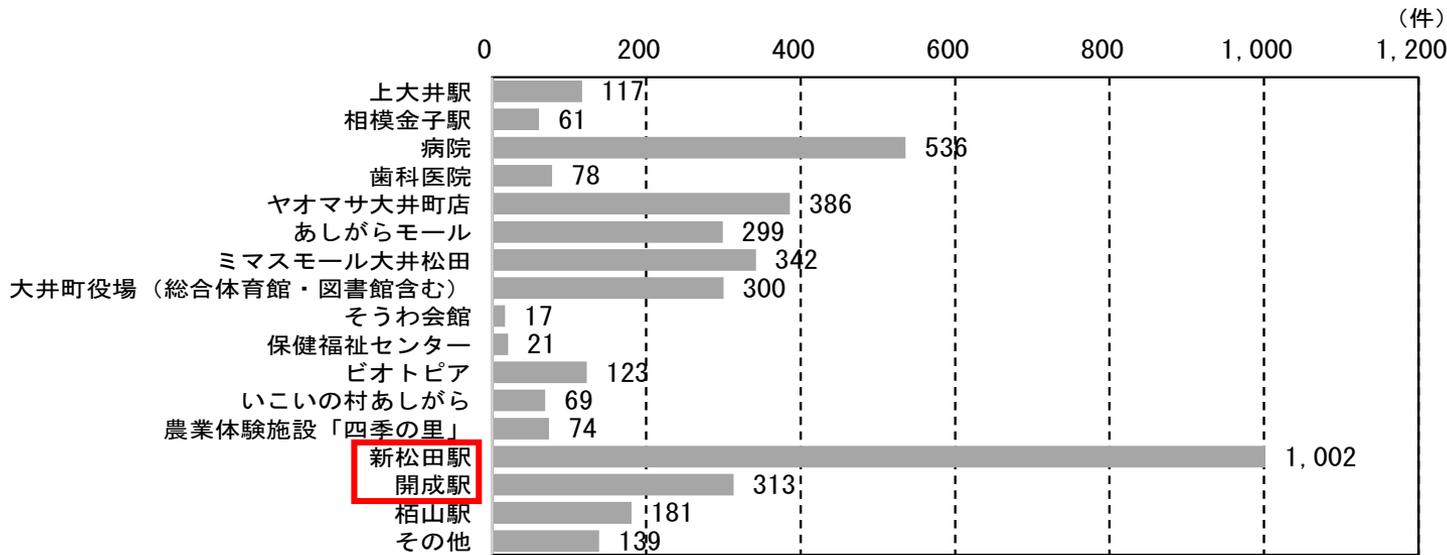


図10：公共交通機関が運行した場合に行きたい場所（1番目、2番目、3番目の合計）（町民アンケート調査）



ア) まちづくりの進捗に合わせた新たな移動への対応

- 大井中央土地地区画整理事業や都市計画道路・金子開成和田河原線の整備に伴う路線バス等の見直し

イ) 交通結節点の機能強化

- 待合環境の整備、鉄道や路線バス、町運行バスとの接続、乗継案内など

ウ) 周辺自治体との広域連携・協力

- 関係自治体担当者の会議へのオブザーバー参加など

④ 過度な車利用の抑制と地域の輸送資源の維持

【地域特性や公共交通の現状】

- 鉄道、バスの割合は5町と比較して10.7%と低く、自動車分担率は65%と高く、自動車依存度が高い。《図11》
- 鉄道、路線バス、巡回福祉バス、タクシーの他、移送サービスや企業送迎バスが運行中

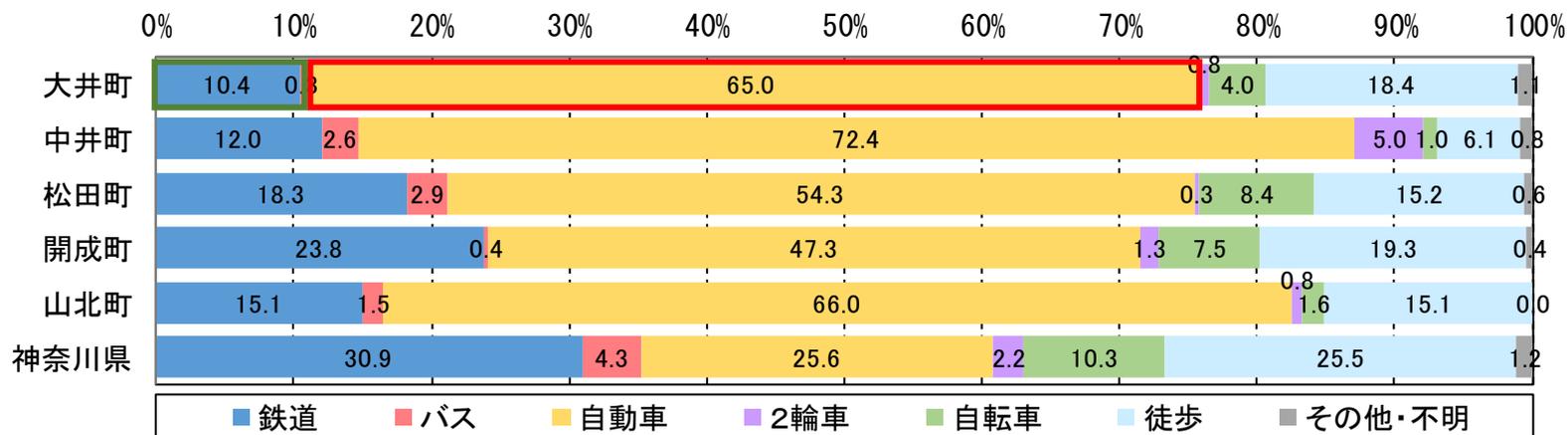
《地区別ヒアリング》

- 将来の移動に対する不安を抱えながら、現在は車や自転車で移動している
- 今運転に対し不安だけど、仕方なく車で移動している

《交通事業者アンケート調査》

- 路線バス、タクシー事業者はコロナ禍による業績悪化や乗務員不足（タクシー）

図11：平成30年代表交通手段分担率（出典：東京都市圏パーソントリップ調査）

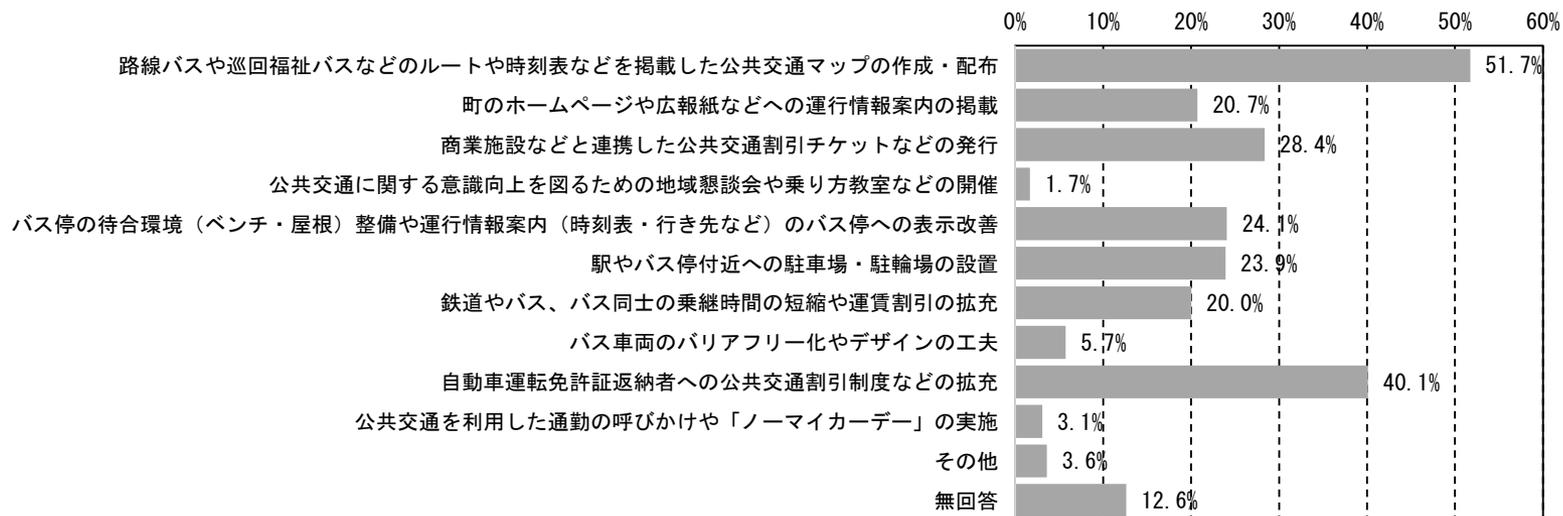


ア) 公共交通利用に対する意識の醸成や分かりにくさによる不安の解消

【公共交通に関するニーズ調査《町民アンケート調査》】

- 公共交通の利用促進を図るための効果的な取組みとして、
 - ・第1位：公共交通マップの作成・配布（51.7%）
 - ・第2位：自動車運転免許返納者への公共交通割引制度などの拡充（40.1%）
 - ・第3位：商業施設などと連携した公共交通割引チケットなどの発行（28.4%）

図12：公共交通の利用促進を図るための効果的な取組み（町民アンケート調査）



イ) 地域資源の総動員による持続性の確保

- 社会福祉協議会で実施中の移送サービス等の積極的活用、運転手の確保
- 目的地となる施設（店舗、病院、観光施設等）との連携